

製品名: MEK-3 (リン酸化 Thr222) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05008**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	39kDa

抗原情報

遺伝子名	MAP2K3
別名	MAP2K3; MEK3; MKK3; PRKMK3; SKK2; Dual specificity mitogen-activated protein kinase kinase 3; MAP kinase kinase 3; MAPKK 3; MAPK/ERK kinase 3; MEK 3; Stress-activated protein kinase kinase 2; SAPK kinase 2; SAPKK-2; SAPKK2
遺伝子 ID	5606.0
SwissProt ID	P46734
免疫原	抗血清は、Thr222 のリン酸化部位周辺のヒト MAP2K3 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 188-237

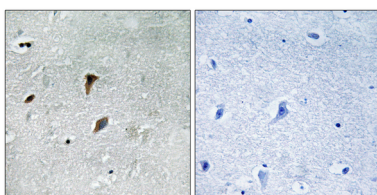
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAPキナーゼファミリーに属する二重特異性タンパク質キナーゼである。このキナーゼは、分裂促進ストレスおよび環境ストレスによって活性化され、MAPキナーゼを介したシグナル伝達カスケードに関与する。MAPK14/p38-MAPKをリン酸化して活性化する。このキナーゼはインスリンによって活性化され、グルコーストランスポーターの発現に必須である。RASがん遺伝子の発現は、このキナーゼの活性型蓄積をもたらし、MAPK14の恒常的活性化を誘導し、初代培養細胞のがん化を引き起こすことが分かっている。このキナーゼの阻害は、Yersinia pseudotuberculosisの病因に関与している。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが報告されている。 [RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。 ,疾患: MAP2K3の欠陥は大腸癌に関与している可能性がある。 ,酵素制御: Ser-218とThr-222の二重リン酸化によって活性化される。 ,機能: 二重特異性キナーゼ。 生体内ではサイトカインや環境ストレスによって活性化される。 MAPキナーゼ p38のスレオニンおよびチロシン残基の同時リン酸化を触媒します。 ,PTM:自己リン酸化されます。 ,PTM:MAPキナーゼによるSer-218およびThr-222のリン酸化は、キナーゼ活性を正に制御します。 ,PTM:Yersinia yopJはSer/Thr残基をアセチル化し、リン酸化と活性化を阻止してMAPKシグナル伝達経路を阻害する可能性があります。 ,類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 ,類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。 STE Ser/Thrタンパク質キナーゼファミリー。 MAPキナーゼキナーゼサブファミリー。 ,類似性:1つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。 ,サブユニット:DYRK1B/MIRKに結合し、そのキナーゼ活性を高めます。 MAP3K3、RAC1、およびCCM2との複合体の一部です。 Yersinia yopJと相互作用する。 組織特異性: 骨格筋で豊富な発現が認められる。 また、他の組織でも広く発現している。

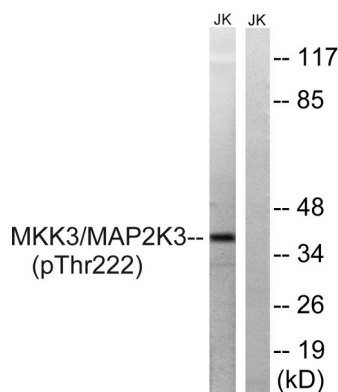
研究分野

血管新生の制御、幹細胞経路、アクチンダイナミクスの制御、Toll様タンパク質、細胞増殖、MAPK_ERK_Growth、MAPK_G_Protein、B細胞受容体

画像データ



MAP2K3 (リン酸化Thr222) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



血清 20% 15' で処理した Jurkat 細胞ライセートの MAP2K3 (リン酸化 Thr222) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。